



令和6年度心のバリアフリー教育グッドプラクティス 応募資料

学 校 名	市川市立大野小学校	
ア 全校児童生徒数	539名	(令和6年11月12日現在)
イ 実践対象 (学年・人数など)	4年生(全学級)87名	
ウ 実践内容 (実施時期・概要など) ※画像の挿入可	<p>5月：「障がい」について話し合い(思考ツールの活用) 6月：ボッチャ体験、校内でのボッチャの普及活動 7月：アイマスク体験、視覚障がいについて話し合い 「子どもアイデアコンテスト(本取組)」に「バリアフリー」をテーマ応募 学校前道路のあいさつゾーン化計画(R5) →周知のための横断幕作り(地域との関わりを密にし、助け合いが広がる街づくりのため)</p>    <p>9月：車いす体験、高齢者疑似体験(市川市社会福祉協議会) 妊婦疑似体験</p>       <p>10月：パラリンピアンとの体験授業 ・ゴールボール金メダリスト田口侑治選手(リーフラス株式会社) ・車いすラグビー銅メダリスト官野一彦選手(あすチャレ!ジュニアアカデミー)</p>     <p>あいさつゾーン横断幕完成お披露目会</p>	

	 <p>11月：体験のまとめ 一人一台端末を活用した新聞作り</p> <p>12月：大野小ダイバーシティ化計画 全校、保護者、地域への「パラスポーツの魅力」「障がいについての理解」などの普及イベントの開催準備</p> <p>1月：普及イベント「ユニバーサルスタジオ大野」開催（準備中） 2月：千葉県立特別支援学校市川大野高等学園とのボッチャ大会（予定） 3月：学習のまとめ、お世話になった地域の方や企業の方にお礼の手紙、学習成果の報告会（予定）</p>	
<p>エ 実践の普及啓発 （地域等との交流や 広報方法など）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体験学習の公開（保護者参観を可能とした） ・ホームページでの交流の様子掲載 ・あいさつロード作りは学区内の店や公民会、自治会、コミュニティバス、JRなどの方々にロード名について投票箱の設置を依頼（R5）町の人々に投票をしてもらった。 ・お披露目会に招待（PTA、自治会、コミュニティバスの職員の方々） ・横断幕掲示により町全体へ周知 ・PTA広報に掲載（全校児童の家庭に配布） 	
<p>オ 実践成果 （児童生徒の変化など）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・電車やバスで席を譲るようになった。 ・オリンピックやパラリンピックの関心が高まり、観戦する機会が増えた。 ・パラスポーツ体験会（PTA行事、地域などの）に参加する児童が増えた。 ・校外で障がいの方や視覚障害者誘導用標示などに気づいたり関心をもったりするようになった。（ポトフォリオから） ・総合的な学習の時間を通じて、地域の方を巻き込んだ学習を考えたり、全校児童や保護者に向けた活動をしたりと実現する力が身に付いてきた。 ・他者の思いに寄り添う児童が増えた。 	
<p>カ 次年度の予定 （課題や改善策など）</p>	<p>【課】ICTが普及しているからこそ、インターネットで検索して満足してしまった。</p> <p>【課】取り組みたい出前授業が多くありすぎて、選ぶことに苦労した。</p> <p>【課】実際のものに触れる機会は多く取れたが、体が不自由な人に会う機会はもっとあった方がよかった。</p>	<p>【改】地域に出て、町のバリアフリーやユニバーサルデザインを自分たちの足で見つけたり感じたりする。見つける活動をする。</p> <p>【改】早い段階で企画書作成や出前授業の準備をする。</p> <p>【改】スポーツ選手以外にも障がいがある方や体が不自由な方との交流機会をあたえる。</p>
<p>キ 添付資料 （広報資料・Web記事など）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大野小学校ホームページ（10/8、10/9、10/10、10/15、10/25） ・PTA新聞「わかくさ」第128号 	

※A4サイズ2ページ以内に調整すること。